

第5章

社会福祉協議会と活動計画

1 各務原市社会福祉協議会と計画の推進

市社協では、第2期地域福祉活動計画から基本構想として掲げてきた『ささえて ささえられて みんなが主役のまちづくり』の実現が、「住民は優しさを分かちあい、より温かく、共感に満ちた各務原市」につながるものであると考え、第5期地域福祉活動計画においてもめざす姿として継承します。

各務原市地域福祉活動計画のめざす姿

ささえて ささえられて みんなが主役のまちづくり

地域の中で、誰かを支え、時に誰かに支えられ、安心して心豊かな暮らしができる地域をつくり、さらに一人ひとりが主役となって活動できるまちをめざします。

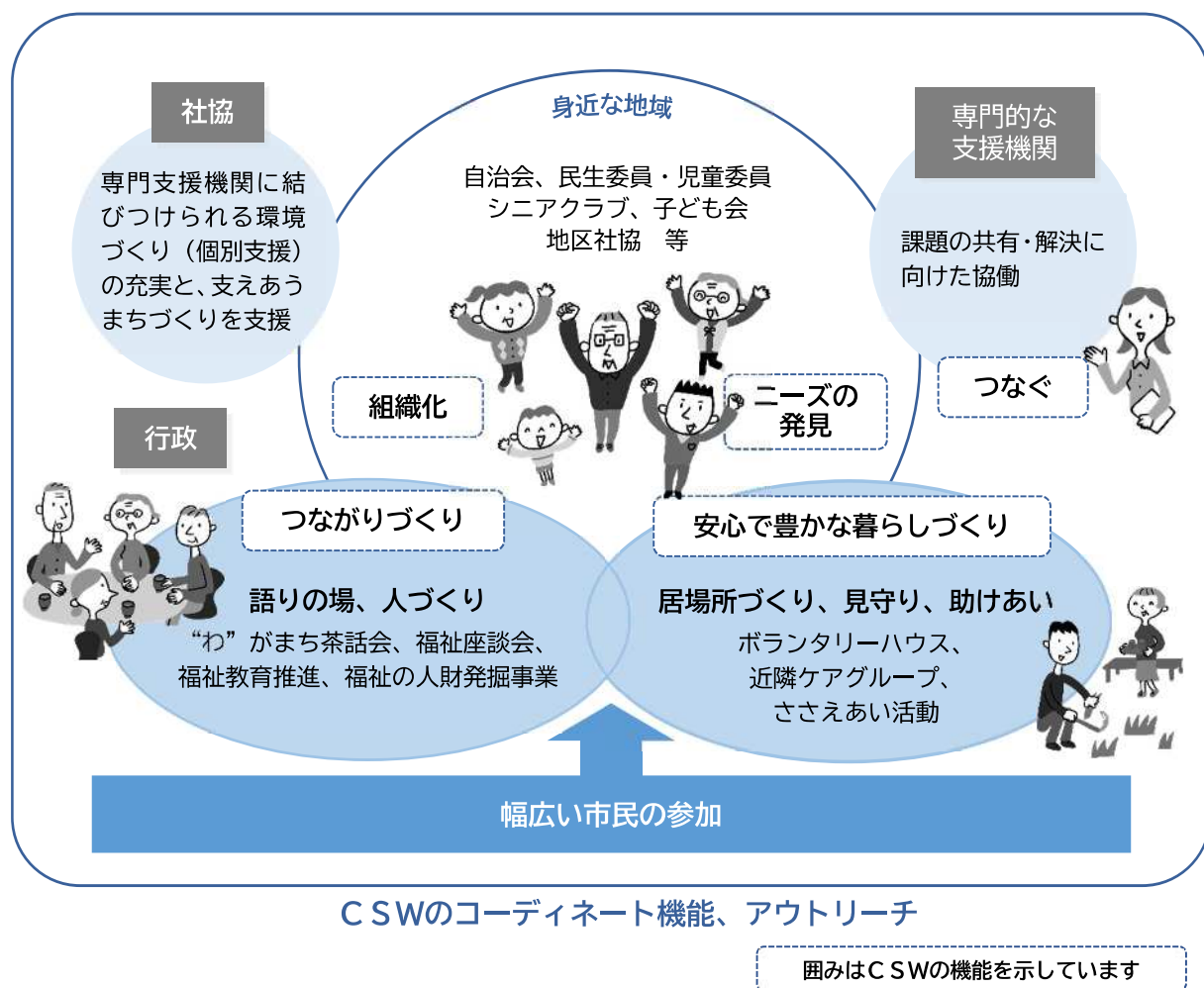
本計画の第3章では地域福祉計画における「計画の基本理念・基本目標」などを、第4章では「施策の展開」を示しましたが、本章では、住民同士が自主的・主体的に解決していく活動を推進するための民間の活動・行動計画として、本市の施策の中で市社協が取り組む内容を抽出した地域福祉活動計画を示します。

基本理念	基本目標	施策	市社協が取り組む内容
みんなが「つながる」「やっほい」あふれるまち かかみがはら	1 認めあい、支えあう まちづくり	(1) 地域活動の促進	・多世代が交流できる地区社協事業の展開 ・身近な場所での拠点づくりに対する支援
		(2) 見守り・助けあいの活性化	・見守り活動の活性化
		(3) 地域組織・団体の連携強化	・地域における情報共有の推進 ・社会福祉法人の公益的取組の推進
	2 地域福祉の担い手が育つまちづくり	(1) 支えあう意識づくり	・福祉教育推進事業 ・偏見や差別解消の啓発
		(2) 活動の担い手づくり	・新たな人材の掘り起こしや参加促進 ・ボランティア養成講座の充実や機会の提供
		(3) 多様な住民の参画促進	・居場所づくり、役割づくり ・若い世代に対する地域福祉への理解促進活動
	3 誰もが安心して暮らし続ける まちづくり	(1) 福祉サービスの質の向上・利用促進	・助成金制度等の周知や利用支援
		(2) さまざまな困難を抱える人に対する支援の充実	・生活相談センター「さぼーと」の運営 ・当事者の組織化に対する支援
		(3) 防災・防犯活動の推進	・災害ボランティアセンター立ち上げに向けた体制づくり
		(4) 包括的な自殺予防体制の構築 【自殺対策計画】	・生活困窮者自立支援事業

2 地域課題の解決への流れ

身近な地域において、世帯が抱える様々な困りごとを気軽に相談でき、専門的な支援機関に結びつけられる環境づくり（個別支援の充実）と、地域において支えあうまちづくりを進めます。そのため、地域ごとにコミュニティソーシャルワーカー*（以下、「CSW」という。）を配置し、地域住民や行政、福祉専門職等から寄せられる、多くの問題を抱える世帯や制度のはざまの問題を抱える世帯など、支援につながりにくいあらゆる生活課題を受け止めると同時に、アウトリーチによる地域の現状把握・課題整理を行い、福祉専門職や関係機関との連携のもと、一人ひとりの生活課題の解決に努めます。

■困りごとを発見・相談・解決しやすいまち



3 地区社会福祉協議会とCSWの協働

市社協では、住民が主体となり生活課題を自分たちの課題として受けとめ、解決につなげる事業を展開する地区社協を小地域福祉活動の中核に据えてきました。

地区社協は、概ね自治会連合会を単位として、市内17の地区社協が組織されています。地区社協は事業効果を考え、住民同士が身近で顔の見える範囲の事業（近隣ケアグループの見守り活動や、ボランティアハウス事業）から、地区内全域を対象としたふれあい交流事業や福祉座談会など、実施エリアを工夫して事業を展開しています。また、自治会、民生委員・児童委員、ボランティアハウスなど様々な団体やボランティアにより組織されている強みを活かし、様々な視点から住民が抱える多様な生活課題に早期に気づき、地域の課題として捉え、各種団体が手を取りあう中で、生活課題の解決に対応していくことをめざしています。

この取組をより実現可能なものとするために、CSWを配置し、職員が地域で集めた困りごとなどの情報を元に、地域の中で共通する課題を見つけ、住民や関係機関等とともにその課題を考える機会をつくり、協働により解決に向けた取組ができるようすすめます。

また、地区社協の活動財源として、住民や事業所からの協力をいただく社協会費が充てられています。この会費を効果的に活用するために、市社協では地区社協の役割を6つに分類し、役割ごとに推奨する事業を助成事業としてメニュー化し、それぞれの事業の目的や意義を明確にした上で、課題の早期発見ができる土壌づくりや生活課題解決に向けた取組につながるよう推進していきます。

■地区社協の役割

No.	役割	メニュー事業(主な取組)
1	集うこと	・ ボランティアハウス事業 ・ ふれあい交流事業 ・ ご近所畑事業
2	学ぶこと・知ること	・ 近隣ケアグループ研修会 ・ 福祉の人財発掘事業 ・ 福祉座談会 ・ 地域の困りごと調査
3	ささえあうこと 安心につながる	・ ささえあい活動支援事業 ・ 食を通じた生活支援事業
4	知らせること	・ 機関紙（地区社協だより）の発行
5	募ること	・ 会費趣旨説明会
6	地域を応援すること	・ 地域福祉活動を活発にするアイデアや、私たちにできることは何かをCSWとともに考える

4 地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

官民協働は車の前輪と後輪のようなものです。

前輪は住民やボランティアで、自分たちのまちをどんなまちにするのか、自らハンドルを握って「方向」を定める役割です（前輪＝地域福祉活動計画）。後輪は国や自治体であり、前輪である住民やボランティアの活動を後押しする動力部分の役割です（後輪＝地域福祉計画）。両計画は車の両輪関係にあり、相互に施策を共有し、連携・協働を図りながら共に地域福祉を推進していきます。

この2つの計画とともに、住民がより主体的に地域福祉活動に関わることができるよう、地区社協の手によって、コミュニティ会議での意見や今までの事業を振り返りながら、今後の地域のめざす姿や取組方針を定めた、地区社会福祉協議会地域福祉推進計画を作成しました。



付箋を使ったアイデア出し



各グループの成果発表

【「キーワード」で見る、地域コミュニティ会議】

地域コミュニティ会議では、地域のよいところ（強み）と地域の課題を付箋に書いて出し合い、今後の取組アイデアを話し合いました。

課題として出された付箋をグループ化したキーワードとしては、「少子高齢化」「近所付き合い」「地域交流」「地域活動・ボランティア」「買い物困難、移動・交通」があがりました。世代を超えたコミュニケーションの必要性や、生活に密着した課題が議論されました。

コミュニケーションを図る方法としては、自治会は広報活動を通じて地域情報を提供、地区社協は参加しやすいイベントを開催し、関係機関が連携し見守り活動や安否確認を進めていくというアイデアが出ました。また、ボランティア隊を組織し草刈りなど住民の困りごとに対処していく、ちょっとした困りごとは近所同士で助け合っていくという意見が出ました。この活動がコミュニケーションや地域のきずなを深めたり、見守り、安心につながっていくことから、多くの地区社協で取り組みたい内容としてあげられたことが今期計画の特徴と言えます、CSW のバックアップが重要となります。

1 那加一地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- 大型ショッピングセンターがあり生活に便利。
- 近隣に駅やインターチェンジがある、交通に便利。
- 地域財産、遺跡、文化財がある。
- お祭りなど古くから継承され、歴史がある。
- 通学路見まもり隊*が多く、安心して通学できる。
- 静かで落ち着いた雰囲気のみち。
- 消防団や自治会役員の担い手不足が目立つ。

総人口	13,340 人
75 歳以上	1,662 人 (12.5%)
65～74 歳	1,283 人 (9.6%)
15～64 歳	8,313 人 (62.3%)
0～14 歳	2,082 人 (15.6%)
世帯数	5,555 世帯
自治会数	21 自治会
ボランティアハウス数	3 か所
近隣ケアグループ数	16 グループ
生活支援活動実施自治会数	1 自治会

令和6年4月1日時点

地域のよいところ

- 道で出会った際や、畑仕事の最中にもあいさつや声かけができる。
- 登下校の子どもや高齢者に対する見守り活動が多く行われている。
- 新しい家が増え、人口が増加してまちが活発になった。
- 古くからの歴史と文化があり、神社の清掃にも多くの方が参加した。

地域の課題

- コロナ禍もあり、地域行事が行われなかった。意識の希薄化からか、コロナ禍が明けた後も地域行事への参加率が減少している。
- 消防団や自治会役員などの担い手が不足している。
- 新しい住民が増えて地域が活発になる一方で、コミュニケーションがとりにくくなっている。
- 見守るべき高齢者の方や独居の方の情報が少なく、状況がわからない。
- 近所付き合いが希薄化している。



野菜づくりを行う過程でご近所が
つながる、ご近所畑事業

子どもから高齢者までさまざまな世代が
交流できるまちをめざします。

今後の取組

① 行事等に参加しやすい環境をつくれます

行事やその他の情報を掲載する回覧を活用してこのまちを知ってもらい、このまちに興味をもってもらいます。新しい住民（若い世代）にも積極的に声をかけて「参加してもいいんだ」と思ってもらえる雰囲気づくりに努めます。

② 子どもも参加できる行事を展開します

子どもから大人まで参加できる事業を展開することで、世代を超えて交流できる機会をつくれます。新しい住民（若い世代）にも参加してもらい、地域や住民を知ってもらうことで日頃から少しでもコミュニケーションがとれる関係性を築きます。

③ 世代を超えた声かけを行います

通学路の見まもり隊や、高齢者に対する見守り活動が活発に行われていることが那加一地区の強みです。顔なじみになることで、子どもたちにも高齢者にも安心してあいさつができます。この活動は継続していき、世代関係なくあいさつや声かけができるまちを目指します。

④ 担い手の育成に努めます

上記3つに取り組み、まずは地域住民にこのまちや社協に興味をもってもらうことで、担い手育成のきっかけにします。行事に参加してもらった際には地域住民との対話を増やし、社協や自治会に対する住民の理解を促進します。また、活動者にとって負担にならないような声かけ、活動方法を検討していきます。



悪徳商法について学んだ近隣ケアグループ研修会

2 那加二東部地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- ・市役所がまちの中心にあり、行政と商業地域の中心的な地域。
- ・市役所、市民公園、駅などの公共施設があり、商業施設なども多く利便性が高く生活しやすい。
- ・新興住宅が少なく、マンションの建設も小規模で古い市街地の町並みが残る。
- ・古い市街地であるため高齢者の割合も高い。
- ・市の中心地であるが、人口は 5,500 人程度。

総人口	5,467 人
75 歳以上	1,125 人 (20.6%)
65～74 歳	609 人 (11.1%)
15～64 歳	3,173 人 (58.1%)
0～14 歳	560 人 (10.2%)
世帯数	2,579 世帯
自治会数	15 自治会
ボランティアハウス数	6 か所
近隣ケアグループ数	12 グループ
生活支援活動実施自治会数	0 自治会

令和6年4月1日時点

地域のよいところ

- 「市民公園前駅」と「各務原市役所前駅」の二つの駅があり、交通の利便性が良い。
- 市役所、図書館、産業文化センターや総合福祉会館など様々な公共施設がある。
- 大きな「市民公園」と「学びの森公園」、そして新境川両岸の百十郎桜並木がある。
- 商業地域で店舗が多い。またクリニックも多くあり便利。
- 通学児童及び生徒のための「見まもり隊」が存在し安全なまち。まちの美化も保たれている。



ご近所畑事業

地域の課題

- 高齢者の割合が高く、それに伴って空き家が多くなっている。
- 高齢者が多い自治会では、不燃物当番や自治会役員の負担の問題がある。
- 水道水の安全性確保の問題があり安心な水の供給が望まれる。
- 地域によっては、閉店した店舗が目立つ。郊外的大型店舗に人が流れている。
- 自衛隊基地があるため騒音問題がある。

地域の中で、声かけ気にかける、
ともに支える安心のまちづくりをめざします。

今後の取組

① あいさつを積極的に行い、隣近所と顔見知りの関係をつくっていきます

隣近所等身近なところから声かけをはじめていき、顔見知りの関係をつくれます。
あいさつなど積極的な声かけを続けることで絆が強くなり、横のつながりができます。

② 自治会活動への関心を高めるよう情報を発信します

自治会の活動に関心のない方が増えてきており、次世代の自治会役員の担い手不足にもつながってきています。SNS 等を活用し情報を発信するなどして、自治会活動への関心を高めるよう工夫していきます。また、活動内容や行事の簡略化等で役員への負担軽減を図ります。

③ 空き家を地域の課題として考えていきます

空き家がなくなることが防犯にもつながるので、地域で問題を共有し、行政に空き家の情報を発信したり、私たちにできることを考えていきます。

④ 住みよいまちづくりを行います

那加二東部地区は古い市街なので、自治会によっては子ども会が維持できないところが目立つようになってきています。新しい住民に居住してもらうために、住みよいまちづくりを心がけていきます。

⑤ 地域のつながりを心がけます

公民館や集会所を活用して、気軽に人が集える場所づくりを行います。

若い人や子どもたちと高齢者が声をかけあえる機会づくりをしていきます。



親子ふれあいの会

3 雄飛地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- 雄飛ヶ丘、不動丘、入会・昭南の3地区から構成され、それぞれ地域特色がある。
- 祭りやイベントごとは皆好きで参加者が多い。
- 歩いて行ける範囲で買い物ができ、バスを活用しどこへでも行ける。
- 自治会役員 OB、有志の集まり（まちづくり委員会）が地域の課題解決に向け積極的に活動、提言をしている。

総人口	3,790 人
75 歳以上	665 人（17.5%）
65～74 歳	456 人（12.0%）
15～64 歳	2,214 人（58.5%）
0～14 歳	455 人（12.0%）
世帯数	1,762 世帯
自治会数	17 自治会
ボランティアハウス数	2 か所
近隣ケアグループ数	11 グループ
生活支援活動実施自治会数	0 自治会

令和 6 年 4 月 1 日時点

地域のよいところ

- 高齢者のためのマルシェや、2か所のボランティアハウスがある。
- 地域の行事が多く、経験者が教えてくれたり手助けしてくれたりする。
- 近所の人との交流やつながりがあり、あいさつができる。
- 住みやすく、若い世代が増えることもあり、公園で子どもが遊ぶ姿も見られる。



健康増進教室

地域の課題

- 高齢者が増え、自治会活動、地区社協、ボランティアハウスの担い手がいらない。
- 高齢者と地域の子どもたちとの接点がなく、世代間の交流がない。
- 自治会加入者、行事参加者が減っている。
- 高齢者が町内活動に出なくなり、安否確認ができなくなっている。

地域行事をとおして、3世代がともにふれあい、
協力しあえるまちをめざします。

今後の取組

① “さつまいもプロジェクト”で多世代交流を図ります

春のさつまいも苗植えから、秋の収穫祭・自主防災活動につながる長期にわたるイベント、年少世代から祖父母世代まで多くの方が参加される世代間交流の機会になっており、今後も継続して実施します。

② 川崎山薬師寺と協働して、薬師寺を起点とした歳時（夏祭り、鬼の巡行）を行い、地域の交流の場を提供します。

川崎山薬師寺は雄飛地区3地区の中心にあり、地域住民にもなじみ深いこともあり、薬師寺で催しを行うことで、3地区間の交流を深め、誰もが参加しやすい環境を整えることができます。

③ 地域食堂のような場で、世代間の交流ができるようにします

足の調子が悪くなり、遠くまで買い物に行けなくなる人も増えてくる中、地域食堂を開設することで食の不安が解消できます。また、放課後に子どもも参加することで世代間のつながりができます。

④ 催しの案内を、参加したいと思わせる表現に変えます

節分のイベントの案内を見ても準備するものがわからず、結局参加しないということがあり、他の事業でもそういったことが考えられます。そのため、「案内を見れば気軽に参加できる」ことを目指し、わかりやすい事業の周知を行っていきます。



さつまいもプロジェクト（収穫祭）

4 那加三地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- ・市役所や公園、学校なども近く、昔からある商業地と住宅地で構成される地域。
- ・長く暮らしている方が多く、昔からの付き合いが多い。
- ・子どもや子育て世代が増えてきている。
- ・祭りや行事が多く、住民が多く参加する。
- ・交通の便が良く、災害の少ない地域。
- ・住民の団結力がある地域。
- ・駅やバス路線があり交通の利便性が良い。

総人口	8,505 人
75 歳以上	1,357 人 (16.0%)
65～74 歳	877 人 (10.3%)
15～64 歳	5,189 人 (61.0%)
0～14 歳	1,082 人 (12.7%)
世帯数	3,847 世帯
自治会数	27 自治会
ボランティアハウス数	6 か所
近隣ケアグループ数	27 グループ
生活支援活動実施自治会数	0 自治会

令和 6 年 4 月 1 日時点

地域のよいところ

- 子どもから高齢者まで人口のバランスが良い。
- 住民の団結力があり地域の行事が盛んである。
- 交通の便が良く適度に商店もあり暮らしやすい。
- 災害が少なく安心して暮らせる。



那加三夏祭り

地域の課題

- 地域のリーダーが高齢化し、次のリーダーがいない。
- 子どもが少なくなり、地域とのかかわりが減ったところもある。
- 空き家が増えそのまま放置されている。
- 転入してきた方の自治会加入率が低く、地域行事の参加につながらない。

「向こう三軒両隣」の輪がつながるまちをめざします。

今後の取組

① 子どもや子育て世代が参加できる事業を実施します

子どもと子育て世代が「困ったときに助けを求められる人がいる」「近くに仲間がいる」と感じられるようビオトープや学校を活用し、子どもとのつながりをつくっていきます。

② 子どもから高齢者まで全世代がつながる事業を実施します

同世代とのつながりはありますが、多世代となると一緒に楽しむことが少なくなっています。しかし、そんな多世代のつながりを大切にしたいと考え、「行ってみたい」「気になる」を大切に、誰もが来やすい事業を行います。

③ ちょっとした困りごとを解決できる体制をつくります

歳を重ね、電球交換等のちょっとした家の困りごとがある人が増えてきています。一方、今まで仕事で得た知識やスキルを持て余している人も多いです。この2者をつなぐことができればちょっとした困りごとの解決、高齢者の出番等、地域に良い効果が出てきます。



近隣ケアグループ研修会

④ 活動の情報を多世代に届けます

行った活動や、PR を全世代に届ける方法は1つではありません。紙、SNS 等を活用し情報を届けることで、まだ地域の活動に関わったことがない人も興味を示すきっかけになります。

5 尾崎地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- 昭和 50 年（1975）はじめに造成された県営アパートと、戸建住宅の大規模団地を中心にした自然豊かな地域。
- 当初に入居した世代の子どもたちの多くが転出し、人口の減少と少子高齢化が著しい。
- いくつかのアパートが閉鎖されて駐在所と保育所が廃止されたが、銀行、スーパー、郵便局などは存続しているので、生活インフラは確保されている。

総人口	4,228 人
75 歳以上	1,111 人（26.3%）
65～74 歳	618 人（14.6%）
15～64 歳	2,142 人（50.7%）
0～14 歳	357 人（8.4%）
世帯数	1,867 世帯
自治会数	22 自治会
ボランタリーハウス数	2 か所
近隣ケアグループ数	5 グループ
生活支援活動実施自治会数	22 自治会

令和 6 年 4 月 1 日時点

地域のよいところ

- 青少年育成市民会議*、体育振興会*、パークレンジャー*等による活動や、個人の清掃活動など、地域活動やボランティア活動が活発である。
- 各分野の専門家（退職した人）が住んでいる。
- 自然が多く、山登りやウォーキングをしやすい環境であり、散歩する人も多い。
- ボタントリーハウスコスモスの里、尾崎ミニサロン、尾崎助っ人隊があり、支えあいの体制ができている。
- 生協、銀行、郵便局、商店街があり、大学も近くにある。



ラジオ体操会（7会場で延べ 2,000 人が参加）

地域の課題

- 高齢化により地域活動の担い手がいらない。
- 自治会の数や自治会加入者が減り、自治会活動の継続が大変。
- 坂が多く移動が大変。バスも少なく、買い物や通院に苦労する。
- 子どもが減り活気がなくなった。地域の付き合いが少なくなった。

助け合って安心して生活できる尾崎地区をめざします。

今後の取組

① ささえあえる地域づくりを継続します

住民のささえあい活動である、尾崎助っ人隊の活動を充実させます。

従来の掲示板やミニ広報での情報発信に加え、スマートフォンやインターネットの利用など、デジタルに関する知識の啓発を進めます。住民の SOS を受け止めることができる地域を目指します。



尾崎助っ人隊（不用品の搬出活動）

② 多世代がふれあえる機会をつくれます

各種団体や地元の企業と連携を図り、多世代が交流できる機会を引き続き提供します。

ラジオ体操会や伝承遊びなどを通じて、多世代がふれあい助けあうことのできるまちを目指します。

③ 多くのボランティアでつながりながら活動をすすめます

ボランティアハウスコスモスの里、尾崎ミニサロン、尾崎助っ人隊をはじめ、多くのボランティアが活動しているので、横のつながりをもち、活動を充実させます。

④ 活動を広げる工夫をします

自治会連合会、青少年育成市民会議や体育振興会などの地域組織との協力関係を維持します。サークルや親子サロンなどの団体との連携を模索します。

6 稲羽西地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- 農地があり自然が多く静かで住みやすい。
- 多世代同居が多い。
- インターチェンジが近くにあり、交通に便利。
- 近年大型ショッピングセンターの進出により、買い物に便利。

総人口	7,555 人
75 歳以上	1,493 人 (19.8%)
65～74 歳	959 人 (12.7%)
15～64 歳	4,278 人 (56.6%)
0～14 歳	825 人 (10.9%)
世帯数	3,051 世帯
自治会数	14 自治会
ボランティアハウス数	5 か所
近隣ケアグループ数	10 グループ
生活支援活動実施自治会数	0 自治会

令和6年4月1日時点

地域のよいところ

- 道ですれ違う人と自然にあいさつができる。
- 住民の移動が少ないので近所付き合いがよくできている。
- 町内や地域の行事が盛んで参加者も多い。
- 通学路の見まもり隊への参加が多く、子どもたちとの交流ができている。



健康講習会

地域の課題

- 転入者の方との交流が取りにくい。
- 少子高齢化が進み公園で遊ぶ子どもの姿を見かけなくなった。
- 生活道路での車の交通量が増え危険である。
- 徒歩で行ける範囲内に商店（コンビニを含む）が少なく、高齢者にとっては買い物が不便。

地域のめざす姿

みんなで作る地域のつながりを
大切にするまちをめざします。

今後の取組

① 転入者の方にも気軽にあいさつ、声かけができる関係を築きます

まずはあいさつから初めて、ご近所に馴染んでもらうところから始めます。
あいさつを通じて、ご近所・地域のつながりを深めていきます。

② 子育て世代の方が生活しやすい環境を整備します

見まもり隊をはじめとし3世代の交流を通じて、気軽に相談できる環境づくりに努めます。

③ 交通安全の意識高揚を図ります

交通量の多いところへの掲示板の設置や、安全ルールの周知に努めます。

④ 買い物困難者に対して地域でできることを検討します

日頃からの見守り活動を通じて、買い物での困りごとがないかを聞き出せる関係を築きます。
移動販売車の実現も選択肢の一つとして検討します。



オータムフェスタでの手話講座

7 稲羽東地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- 持ち家が多く、程よい世帯の広さと間隔があり、プライバシーも守られつつ、良好な近所付き合いができる。
- 自治会活動参加率が高く、子ども会、PTA、見まもり隊、シニアクラブ*活動も盛ん。
- あいさつ、声かけ、日々の意見交流、伝統行事、お裾分け文化も盛んで、子育て、介護のしやすい地域。
- 仕事先が地元になく、勤労世代は昼間不在。

総人口	3,511 人
75 歳以上	727 人 (20.7%)
65～74 歳	527 人 (15.0%)
15～64 歳	1,957 人 (55.8%)
0～14 歳	300 人 (8.5%)
世帯数	1,430 世帯
自治会数	11 自治会
ボランティアハウス数	1 か所
近隣ケアグループ数	11 グループ
生活支援活動実施自治会数	0 自治会

令和 6 年 4 月 1 日時点

地域のよいところ

- 三世代間でのあいさつ、声かけが盛んである。
- 知らない人同士でもあいさつをする。
- 見守りが盛んであり、安心して子育てができる。
- 地域の人とのコミュニケーションが良好である。
- 自治会活動が盛んである。



高齢者ふれあい交流会

地域の課題

- 移動手段、買い物先が少なく、生活必需品の確保に手間がかかる。
- 交通量が多くなり、車の危険が増え、抜け道対策が不十分である。
- 勤労世代が兼業耕作をしなくなり、田畑、耕作放棄地の管理が不十分である。
- 子どもが都会に就労し、独居、空き家が増加している。
- 地区に就労先が少ない。

自治会やシニアと連携して、三世代交流を活性化する。

今後の取組

① 買い物、移動支援に関するサービスや情報を共有します

移動スーパーの利用など外出、買い物の工夫や、道の駅や商店の誘致について話し合ったり、情報提供を行います。

② 交通量が多くなり、車の危険が増えたため、安全なまちをつくります

危険な道路の場所を確認し、自治会と協働して市役所などに知らせます。また車が速度を出す道は見守りや、手づくりの啓発看板を設置するなど住民の安全確保に努めます。

③ ボランティア隊の組織を検討します

農地や自宅など、雑草を刈ることが難しくなり、荒れている空き家も目立ちます。田畑や耕作放棄地も含めて、草刈りなど住民の困りごとに対処する、ボランティア隊の組織づくりを検討します。

④ 三世代交流をすすめます

自治会やシニアとも連携し、子どもが家族とともに世代を超えて参加でき、自治会に入っていない人ともコミュニケーションを図れる事業などを検討します。



赤い羽根たすけあい交流会

8 川島地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- ・周囲を木曽川に囲まれた珍しい地域で、川の眺めはとても美しい。
- ・来園者が多い「河川環境楽園」と、製菓業屈指の製菓会社等がある。
- ・自然が減少している。
- ・転入による若い人口が増えている。
- ・鉄道が通っていない。
- ・スーパーがない。

総人口	11,866 人
75 歳以上	1,498 人 (12.6%)
65～74 歳	1,291 人 (10.9%)
15～64 歳	7,322 人 (61.7%)
0～14 歳	1,755 人 (14.8%)
世帯数	4,713 世帯
自治会数	35 自治会
ボランティアハウス数	6 か所
近隣ケアグループ数	6 グループ
生活支援活動実施自治会数	4 自治会

令和 6 年 4 月 1 日時点

地域のよいところ

- 昔から住む人はお互いが顔をよく知っている。
- 八朔相撲や小網太鼓など古くからの行事が残っている。
- 神社、墓地等の清掃をする高齢者のグループが見られる。
- 木曽川の清流のように人々の心は優しく純粋である。



配食サービス

地域の課題

- 自治会等の行事に理解が薄く、ボランティアや参加者が少ない。
- 自治会未加入や子ども会の解散がみられることから組織づくりを考える必要がある。
- 新しく川島へ転入してくる人々と以前から住んでいる人との結びつき、交流が必要である。
- 公共交通の整備が十分でなく、買い物・通院が不便である。
- 戸建て住宅、アパートの建設により通行する車が多くなる一方、狭い道路が多く、すれ違いに困る。将来、大雨での浸水や災害時の救出等に支障が出る可能性がある。

故郷の心と故郷のつながりが優しく、固く、いつまでも続き、
3つの健康（身体、頭、心）づくりが継続していくことをめざします。

今後の取組

① あいさつを絶やさずに

人の心のつながりのきっかけは、あいさつから始まります。道で会ったとき、各種事業で顔を合わせたとき等、あいさつをするよう努め、近所・地域の結びつきを深めていきます。

② おいで、おいで輪の中に入って

昔から住んでいた人と新しく転入してきた人が、互いに気持ちよく住むことができるよう、交流事業や伝統文化のふれあいを進めていきます。（自治会加入、各事業への参加を呼びかけます）

③ いつまでも元気に

みんなが心身健康でいつまでも元気で暮らせるように、フレイル予防事業等への理解や参加を呼びかけていきます。

④ みんなのために自分のため

少子高齢社会の今は、世代とは関係なく、元気な人がそうでない人を支える時代であり、見守り支援やボランティア活動が広まっていくように努め、それが自分のためにもなることを周知します。

⑤ リーダーの養成

子どもから高齢者まで各層にわたって、リーダーづくりに力を注ぎ、シニアクラブの活性化やボランティアグループの増加、子ども会の再立ち上げに努めていきます。



夏休みふれあい交流事業

9 鵜沼第一地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- ・南部には古くからある3世代の世帯も多い。
- ・アパートや住宅ができて、若い世代の移住者も増えてきた。
- ・名古屋や岐阜などへの交通の便が良い。
- ・国道21号線沿いには、商業施設が増えてきた。
- ・各務原アルプス、木曽川など自然も豊か。

総人口	9,957 人
75 歳以上	1,395 人 (14.0%)
65～74 歳	1,087 人 (10.9%)
15～64 歳	6,109 人 (61.4%)
0～14 歳	1,366 人 (13.7%)
世帯数	4,179 世帯
自治会数	24 自治会
ボランティアハウス数	6 か所
近隣ケアグループ数	22 グループ
生活支援活動実施自治会数	0 自治会

令和6年4月1日時点

地域のよいところ

- ボランティアハウスなどの集いの場所が定期的開催され、顔を合わせやすい。
- 交通の便が多く、商業施設も増え、まちが活発である。
- 新しいアパートや住宅が増え、若い世代も多い。
- 地域の活動へ参加する意欲が高い。

地域の課題

- 地域活動への参加意欲も高いが、参加する人が特定されている。
- 若い世代（新しく転入された人）の地域活動への参加が少ない。
- 世代間で会話をする機会が少ない。
- ボランティアの高齢化、地域活動を行う次の世代が少ない。



福祉講演会

3世代交流が豊かなまちをめざします。

今後の取組

① 3世代でふれあう場をつくります

鵜沼第一地区社協では、「なるほど ザ ふるさとの自然や歴史発見！」と題し、世代を超えた交流を図ってきました。今後も世代を超えた交流できる事業を継続し、3世代がふれあえる場をつくります。

② 地域の魅力を伝えます

広報などで地区社協や地域の魅力を発信することで、新しい移住者や若い世代にも地域の活動に参加してもらえるよう努めます。

③ 人の役に立つ喜びを伝え、協力者を増やします

地域の活動の参加者が増え、対話が増えることで地域活動やボランティアの良さを伝えることができます。若い世代も地域活動に参加してもらえるようコミュニケーションを図っていきます。

④ 近所同士で対話をします

近隣ケアグループ、自治会長、民生委員・児童委員が近所でコミュニケーションを図れるよう研修会を行い、意識づけをしていきます。



古市場フレッシュサロン

10 鵜沼第二地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- ・各務原台地の上にあり、災害が少ない。
- ・以前からの住民、新しく住み始めた住民が全体的に混じっており、年齢層に極端な偏りがない。
- ・人口減少がほとんどない。
- ・公園や街路樹等緑が多い。
- ・鉄道が鵜沼の東西をつないでおり、他の公共交通機関も充実している。

総人口	13,054 人
75 歳以上	1,678 人 (12.9%)
65～74 歳	1,344 人 (10.3%)
15～64 歳	8,267 人 (63.3%)
0～14 歳	1,765 人 (13.5%)
世帯数	5,742 世帯
自治会数	27 自治会
ボランティアハウス数	8 か所
近隣ケアグループ数	26 グループ
生活支援活動実施自治会数	27 自治会

令和 6 年 4 月 1 日時点

地域のよいところ

- 都会でもなく田舎でもなく、程々に近所付き合いができています。
- JR、名鉄電車、国道、高速道路 I C が近くにあり交通の便が良い。
- 各務原台地の上にあり、水害、地震に強い地域である。
- 各種の団体が、程よく活動している。



はじめてのハンドドリップ
(福祉の人財発掘事業)

地域の課題

- 高齢化率が高くなり独居者が増加し、生活上での不安を抱えている人がいる。
- いろいろな団体間の交流が少なく、活動の分担が明確でなく意思の疎通も十分でない。
- 特に高齢者は買い物や通院等で、車がないと生活が困難な場合が多い。
- 特に子どもが減少しており、将来の鵜沼地域の賑わいが減らないか心配。
- 災害が少ない地域ゆえに、災害への備えや、防災の意識が薄い。
- 近所付き合いの希薄化。

お互いさまの気持ちで支えあう、
笑顔あふれるまちをめざします。

今後の取組

① 住民お互いさま活動を活発にします

高齢化により、今後の生活に不安を感じている人に対し、住民お互いさま活動で不安を解消していきます。そのために、住民お互いさま活動の活動者を増やしたり、専門性を高めたりして幅広いニーズに応えられるよう努めます。

② 多くの団体と意見交換を行ったり、課題解決のために協働します

自治会、民生委員・児童委員、近隣ケアグループ、ボランティアハウス、シニアクラブ、地域包括支援センター等と日頃から意見交換をすることで、互いの強みが見えるようになります。その結果、課題を共同で解決できるようになることを目指します。

③ 移動が困難な方への移動支援を行います

現行のふれあいバス*、チョイソコ*の利用を推進するとともに、自宅前から目的地に移動する新たな方法を模索します。

④ 全世代が参加したい「共通テーマ」で全員参加をめざします

子ども、青年、成人、高齢者まで全世代が参加したい、関わりたいと思える共通のテーマを見つけ、誰でも来やすい事業を展開します。

⑤ 被災に慌てない地域をめざします

家具転倒防止や備蓄などの自助、高齢者世帯や要支援者の把握、炊き出しや AED*の訓練などの共助ができるよう研修会を実施し、住民に防災について周知します。



ボランティアハウス ばじ東風

11 陵南地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- 東西に走る県道(木曾川街道)より南は農業地域。南端には陵南小学校が位置する。
- 県道の朝日町南交差点より北へ市道各務原駅前通りがのびている。通りは住宅密集地を東西に二分し、地区の主要道路で陵南小学校の児童のための通学路となっている。交通量は増加しているものの、50 年来大きな道路改良はされていない。
- 高齢化率は 29.3%。大型店舗は無く、コンビニは 3 軒。必然的に移動手段は車となり、高齢になるほど危険度は高くなる。

総人口	7,173 人
75 歳以上	1,231 人 (17.2%)
65～74 歳	869 人 (12.1%)
15～64 歳	4,186 人 (58.3%)
0～14 歳	887 人 (12.4%)
世帯数	3,019 世帯
自治会数	12 自治会
ボランティアハウス数	3 か所
近隣ケアグループ数	12 グループ
生活支援活動実施自治会数	0 自治会

令和 6 年 4 月 1 日時点

地域のよいところ

- 子どもたちを含め、あいさつがしっかりできる。
- 花等のやりとり（分け合い）が大変良いと思う。
- 近所についてはほぼ全戸が 40 年以上の付き合いがあり、声かけ等もしっかりできている。
- 春秋にシニアクラブの 30～40 人くらいで陵南小学校の草刈りをしている。
- 災害が少ない。



健康麻雀大会

地域の課題

- 高齢化で、事故や生活環境が心配である。
- 若い人との交流が少なく、コミュニケーションが取れていない。
- 親子ふれあい行事に人が集まらない。

老いも若きも元気な者で
支え見守るまちづくりをめざします。

今後の取組

① 高齢者宅を見守り、手伝います

自治会又はグループで高齢者宅を見守り、お助け作業を複数人で行います。

② 移動手段について情報共有します

高齢となり、運転免許証の返納者が多くなります。返納後に活用できる移動手段やサービスについて話し合ったり、集めた情報を地区で共有したりします。

③ 若い人との交流、コミュニケーションを図ります

自ら積極的に行事に参加して交流を図ります。気軽に参加できる行事を検討します。

④ 交通事故のないまちをめざします

事故が起こってからでは遅いため、道路の状況を確認し自治会と連携して道路改良を要望します。

交通安全に対して、地域で取り組める活動を考えます。

⑤ 災害マニュアルを確認し防災訓練を行います

災害マニュアルはあっても、役割があることをよく知りません。高齢者、自治会長、班長、近隣ケアグループ、それぞれの役割が果たせるよう、訓練教育をすすめていきます。



地域コミュニティ会議

12 鵜沼第三地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- ・市東部に位置し、それぞれ成り立ちが異なる住宅団地やマンションなどで構成され、区によって人口構成が異なっている。
- ・公園周りの清掃活動、夏祭り、親子ふれあい事業等、自治会活動に地域住民が多数参加している。
- ・地域のコミュニケーションが取れている。

総人口	10,848 人
75 歳以上	2,086 人 (19.2%)
65～74 歳	1,480 人 (13.6%)
15～64 歳	5,862 人 (54.1%)
0～14 歳	1,420 人 (13.1%)
世帯数	4,663 世帯
自治会数	33 自治会
ボランティアハウス数	5 か所
近隣ケアグループ数	27 グループ
生活支援活動実施自治会数	16 自治会

令和 6 年 4 月 1 日時点

地域のよいところ

- 近隣とのあいさつがよくできている。
- 声かけや安否確認ができている。
- 自治会等の防犯パトロールの実施で犯罪防止となっている。
- 近くにうぬまの森があり、自然豊かである。



地域コミュニティ会議

地域の課題

- 空き家が多くなってきて、防犯上問題となりつつある。
- ゴミ出し時、ゴミ用ネットがあっても鳥によるゴミ飛散が多い。
- 住民の高齢化が進んでおり、独居高齢者が増えている。
- 自治会員でない人が増えて、マナー違反が多い（ゴミ出し、駐車違反）。

助けあい、支えあい、
住みよい安全・安心なまちづくりをめざします。

今後の取組

① 社会福祉協議会の活動PRをすすめます

社会福祉協議会の取組内容に関する地域住民の理解及び行事参加を推進していきます。

② あいさつ・声かけを励行します

子どもから大人まで、あいさつや声かけを推進し、近隣住民とのつながりをより深くし、日ごろから助けあいができるまちにします。



配食サービス

③ 独居高齢者との交流をすすめます

近隣ケアグループ及び民生委員・児童委員、自治会の協力を得て、独居高齢者等と交流を進め、高齢者の心身の健康とともに地域の活性化を図ります。



健康教室



ボランティアハウス
なかよしハウス

13 各務地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- 地域面積は市内最大だが、山地や田畑が多い。
- 名所旧跡が多く、古くからのお祭りも続いている。
- 小学校区が3つに分かれている(各務、中央、鵜沼第二)。
- 住宅が散在しているところも多く、地区内に商店や飲食店が少ない。
- 自治会とは別に区組織がある。

総人口	5,878 人
75 歳以上	1,247 人 (21.2%)
65～74 歳	896 人 (15.2%)
15～64 歳	3,198 人 (54.5%)
0～14 歳	537 人 (9.1%)
世帯数	2,490 世帯
自治会数	22 自治会
ボランティアハウス数	4 か所
近隣ケアグループ数	23 グループ
生活支援活動実施自治会数	0 自治会

令和6年4月1日時点

地域のよいところ

- 自然豊かで車の騒音なども少なく落ち着いて生活できる。
- 地域住民の顔がわかるので安心感がある。
- 古くからの行事(祭礼等)が現在も続いており、住民同士の連帯感がある。
- 高齢者同士の交流が盛んで、元気な高齢者が多い。



地域ふれあい広場

地域の課題

- 少子高齢化が進んでおり、空き家や耕作放棄地が目立ちはじめた。
- 市街化調整区域*が多く、新たな人口増につながらない。
- チョイソコ以外公共交通手段はなく、移動には車が欠かせない。
- 小学校区が3つに分かれているため、自治会や青少年育成の活動に支障がある。
- 自治会などの役員の受け手がいない。また、自治会等からの脱退も発生している。

地域のめざす姿

“ふれあい・ささえあい・たすけあい”
ぬくもり溢れるまちをめざします。

今後の取組

① 交流する機会を増やします

コロナ禍ですっかり萎えた交流を、1つ1つ取り戻していきます（あいさつや声かけ、見守り活動・安否確認、高齢者訪問、ふれあい活動等）。



ふれあい交流事業（村国の郷ふれあいの集い）

② 地域の歴史や文化を宣伝し、当地への誇り・愛着につなげます

恵まれた歴史的、文化的資産の魅力をアピールしていきます。お祭りなどの行事にも協力していきます。

③ 買い物や通院等の手段を模索します

チョイソコの利用を勧奨します。

移動販売車や宅食などの利用について、情報収集をしていきます。

④ 被災に慌てない地域をめざします

家具転倒防止や備蓄などの自助、高齢者世帯や要支援者の把握、炊き出しや AED の訓練などの共助ができるよう研修会を実施し、住民に防災について周知していきます。

14 緑苑地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- ・昭和 40 年代以降に住宅団地として造成された地域。
- ・緑や坂道が多く、自然豊かな住宅地である。
- ・人口の減少と少子高齢化が顕著である。
- ・地域活動へ参加することで、地元への関心が高まり、人間関係が広がっている。
- ・サークル活動や趣味活動が盛んで、シニア層が元気である。

総人口	3,940 人
75 歳以上	1,134 人 (28.8%)
65～74 歳	654 人 (16.6%)
15～64 歳	1,890 人 (48.0%)
0～14 歳	262 人 (6.6%)
世帯数	1,810 世帯
自治会数	18 自治会
ボランティアハウス数	5 か所
近隣ケアグループ数	3 グループ
生活支援活動実施自治会数	18 自治会

令和 6 年 4 月 1 日時点

地域のよいところ

- 地域内で住民がすれ違う場合などに気軽にあいさつができています。特に子ども達が元気よくあいさつをしてくれる。
- 団地ができて 50 年以上経つため、長く住んでいる住民が多いので、関係の良いご近所付き合いが継続できている場合が多い。
- ボランティア人口が決して多いとは言えないが、ボランティア活動に対して積極的に取り組んでいる人が多い。
- 夏祭りの復活など、昔から続いてきている地域行事が継続できている。また、地域で立ち上げたサークル活動なども活発に活動できている。
- 自然環境が豊富で災害や事故が少なく、地域内の公園がきれいに整備されている。そのため地域内を散歩する人を多く見かける。



敬老の集い

地域の課題

- 地域の少子高齢化と共に空き家が増えてきており、手入れの行き届いていない空き家も存在する。
- 団地全体が坂道となっていて、特に中地区から北地区にかけては移動手段の確保が必須となっている。一方で、コミュニティバスや循環バスの本数が少ないため、移動手段に困っている人が多い。
- 住民の人で地域との交流を好まない人が一定数存在する。その中には、特に高齢者や独居の人が多く、どのように地域で支えていくべきかといった問題を抱えている。
- 少子高齢化により、地域内のボランティアや支えあいの担い手が高齢化しており、元気で活動的なボランティアや担い手を必要としている。

**住民相互でふれあいささえあい、
SOSが言える思いやりのあるまちをめざします。**

今後の取組

① ちょっとした助けあい活動を充実させます

活き活きサポート活動による住民相互支援の体制はできあがっていますが、十分に行き届いた活動ができているとは言い難いです。ちょっとした助けあい精神に立ち返って運営方法を抜本的に見直すとともに、新しい担い手の募集等を積極的に行います。

② 住民相互の交流の機会をつくります

ふらっとやコミュニティセンターなどの公共の場を活用し、住民が相互に交流できるような場の提供を目指します。特に、新しく引っ越してきて地域に慣れていない人や外国の人などに対するケア及び高齢者・独居の方などの交流の場の提供に注力します。



ふれあいぜんざい会

③ ボランティア活動の活性化を図ります

有償無償に関わらず、幅広い年齢やジャンルのボランティアを募集します。特に自治会を含めた様々な団体に協力しているボランティア相互の横連携を行い、お互いに支えあえるような体制構築を目指します。

④ 移動や買い物が困難な方へのサポートを強化します

すでに運用している「グ린タクシー」（住民主体による高齢者等移動支援事業）を有効に利用して、地域内の移動や一部地域外への移動なども含めて、移動が困難な人をできるだけ支援します。また、移動販売などの仕組みを利用した買い物支援活動などの誘致も積極的に推進します。

15 八木山地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- ・少子高齢化、人口減少が著しい。
- ・車であれば2、3分で行ける所に商店・医療機関がある。
- ・坂が多いため通院、買い物に困難を抱えている人は不便を感じている。
- ・高齢化に伴い、身体の不調を感じていたり、家族の介護が負担となっている人が多い。

総人口	4,656 人
75 歳以上	1,238 人 (26.6%)
65～74 歳	880 人 (18.9%)
15～64 歳	2,163 人 (46.4%)
0～14 歳	375 人 (8.1%)
世帯数	2,049 世帯
自治会数	15 自治会
ボランティアハウス数	5 か所
近隣ケアグループ数	9 グループ
生活支援活動実施自治会数	15 自治会

令和 6 年 4 月 1 日時点

地域のよいところ

- 地域の人々の困りごとに対応する「ささえあい活動」のほか、自主的グループが多く活動。
- 豊かな自然環境の中で生活ができている。
- 食品スーパーや医療機関が沢山ある。
- 介護認定者が少ない。元気な高齢者が多い。
- 多彩な技術を持った人が数多く、その力を発揮している。



ささえあい活動（草取り）

地域の課題

- 自治会脱退者が増えている。近隣ケアグループが数少なくなっている。
- PTA、子ども会の未加入者が多い。子どものスポーツクラブも数が減っている。
- 地区社協をはじめ、地域の活動団体の後継者が不足している。
- 高齢に伴い、自身の体の不調、介護の苦しさを抱えている人が多い。

「つながる・ささえあう」まちをめざします。

今後の取組

① ささえあい活動の推進に努めます

力を合わせて、人々の困りごとの解決に応じります。
目的は“つながりづくり”そして災害対策と捉えて活動します。



ささえあい活動（雨戸の開け閉めをしてもらったお礼で、短歌を教える）

② 自治会役員の社協への理解を促します

自治会役員に社協を理解してもらうために、理事会だよりを発行したり、組長会・班長会に向いて活動を説明したりします。

③ 活動者を増やしていきます

活動内容を幅広くし、多くのメンバーで活動を担うようにしていきます。

④ DX（デジタルトランスフォーメーション）*に挑む

クラウドの活用・資料のデジタル化（八木山地区社協ライブラリー・アーカイブス）等、情報の共有化、事務の省力化、課題の掘り起こしをします。

⑤ 活動者の健康維持を大事にします

事業が無理なく継続できるように、活動と休息とのバランスを大事にします。
活動の中で効率よく仕事をすすめていきます。

16 蘇原北部地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- ・自然が豊か。
- ・高台に位置している地区なので水害の心配が少ない。
- ・ボランティアハウス活動が活発(特に健康体操)。
- ・高齢者の増加が著しい。
- ・町内会の集まりが良い。
- ・病院が多い。
- ・市内で一番人口規模が大きな地区。
- ・新しい住民と昔からの住民との間で温度差がある。
- ・世代間ギャップが目立つ。
- ・まちがきれい。
- ・親切な方が多い。

総人口	18,823 人
75 歳以上	2,747 人 (14.6%)
65～74 歳	2,076 人 (11.0%)
15～64 歳	11,626 人 (61.8%)
0～14 歳	2,374 人 (12.6%)
世帯数	7,825 世帯
自治会数	32 自治会
ボランティアハウス数	12 か所
近隣ケアグループ数	24 グループ
生活支援活動実施自治会数	0 自治会

令和 6 年 4 月 1 日時点

地域のよいところ

- 安心、安全、環境が良い。
- 自治会加入世帯が多い。
- 水害の心配が少ない。
- 歴史のある地区が多い。



子育て支援事業

地域の課題

- 高齢化により買い物困難者が増えている。
- 若い世代と古い世代の交わり方が難しい。
- 集団行動が昔に比べて減った(コロナで特にその動きが加速した)。
- 公共交通機関が少なく、移動困難者が多い。
- 他所へ働きに出ており地域を知らないため、定年後地域に溶け込めない。

安心して心豊かに
暮らし続けることができるまちをめざします。

今後の取組

① 後継者の育成に努めます

今後の地域を担う人材を育成していかないと、自治会そのものが成り立たなくなるため、若い世代が自治会を引っ張れるような仕組みづくりを進めます。そのために、自治会への参加や負担を軽減できるように改革していきます。

② ご近所とのつながりを大事にしていきます

お隣へのあいさつなど気軽に地域を見守る活動を推進していきます。

③ 環境美化活動を積極的に行います

自分の住む地域を綺麗なところにしていきたい気持ちは、世代共通です。美化活動をしながら地域や世代のつながりができる取組を検討します。

④ 地域内での不用品有効活用をすすめます

不用品を集め、その場でほしい人に無償で渡すことで、新しい交流の場づくりができます。特に世代間交流を進めるひとつのツールとして活用できないか検討します。



地域コミュニティ会議

17 蘇原南部地区社会福祉協議会 地域福祉推進計画

地区の状況

- 市のほぼ中央に位置し、JR 蘇原駅、名鉄六軒駅があり、国道 21 号線が通るなどとても利便性が良い。
- 住民構成は稲葉郡時代からの居住者に加え、利便性の良さから各務原市制になった頃に移住してきた方、近年移住してきた方など、幅広く多岐にわたる。
- 古くからある伝統文化や慣習を守りつつも、新しい世代に即した文化や慣習の創造が必要な地域である。

総人口	10,506 人
75 歳以上	1,685 人 (16.0%)
65～74 歳	1,183 人 (11.3%)
15～64 歳	6,520 人 (62.1%)
0～14 歳	1,118 人 (10.6%)
世帯数	5,083 世帯
自治会数	36 自治会
ボランティアハウス数	15 か所
近隣ケアグループ数	23 グループ
生活支援活動実施自治会数	0 自治会

令和 6 年 4 月 1 日時点

地域のよいところ

- あいさつや近所付き合いなどコミュニケーションのとれた良い地域。
- 自治会加入率が高く、地域活動が盛んで参加者も多い地域。
- ボランティアハウスをはじめ、ボランティア活動も盛んな地域。
- 買い物が便利で、生活環境がしっかりとっていて長く住み続けられる地域。
- 体操やウォーキングに取り組める健康に配慮された地域。



地域の課題

- 高齢化が進み、移住者の子ども達の巣立ちによる少子化の減少が加速している。
- コロナ以降特に地域住民同士の交流が希薄化し、困りごとなどの情報がわからない。
- 高齢世代と若い世代とで地域行事に関する思いのギャップが出ている。
- 地域団体の役員や個人の方の担い手が、見つけにくい状況である。
- 公共用地の管理やゴミを荒らす鳥獣被害による環境問題に直面している。

自治会と連携してささえあえるまちをめざします。

今後の取組

① ふれあい事業を通じて、子ども達にふるさと意識を高めてもらいます

どこで暮らすのも自由に選択できる時代において、子どもの心の中に一つでもこのまちに住み続けたいと思う体験の場を提供していくことが、少子化の歯止めにつながります。そのきっかけとして、ふれあい事業を実施します。

② 住民同士の会話の機会を創出して、困りごとに対処できる地域をめざします

『本当に困った』の前に、『ちょっと困った』を解決できる地域を目指すことが重要だと考えます。そのためには近所の間で会話の機会を創出して、気心わかりあえる環境づくりに取り組みます。

③ ふれあい事業を通じて、高齢世代と若い世代の信頼関係を高めます

日常のライフスタイルや育った環境の違いなどを理解しながら、お互いを尊重しあう関係をつくり出すことが、持続性ある地域につながります。三世代交流の場となる井戸端農園を継続していきます。

④ 地域の財産は、『そこに暮らす人です』を生かす自己紹介カードを

担い手不足と言えども、地域に住人がいる限りできる人は必ずいます。担い手が不足となるのは、担い手を発見できないか、役割の重要性を感じていないからだと捉え、自己紹介カードを活用し、人財の発掘とコーディネートを進めます。どのような人が暮らしているかを知ることからはじめていきます。



⑤ 地域の住環境を整え、自主管理のルール化で住みよいまちづくりをすすめます

各町内において住環境などを話し合う場を設け、自分ですること、皆ですること別に分け、町内の自主管理ルールブックなどの作成を検討します。

